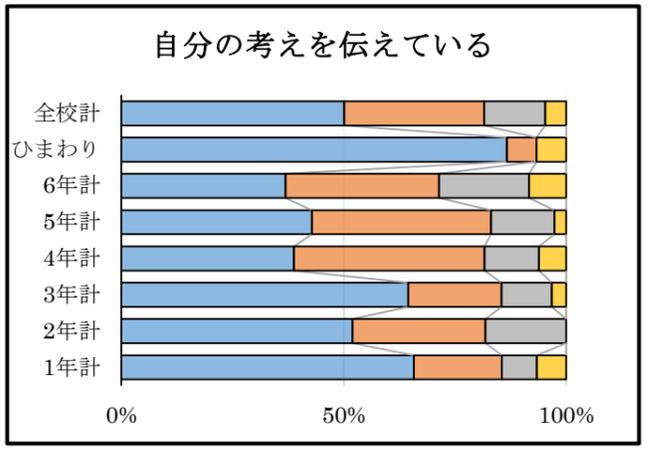
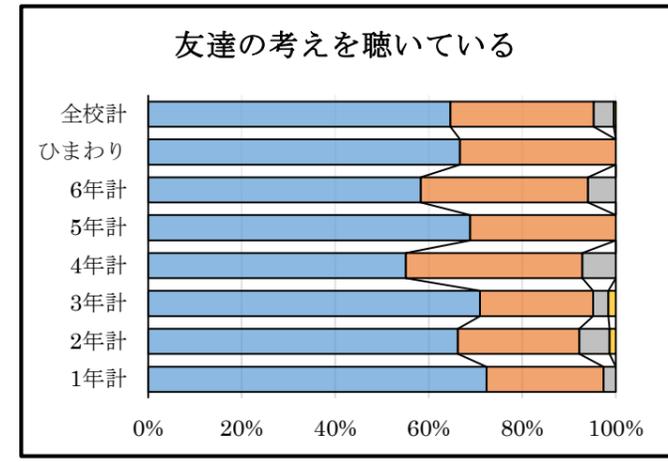
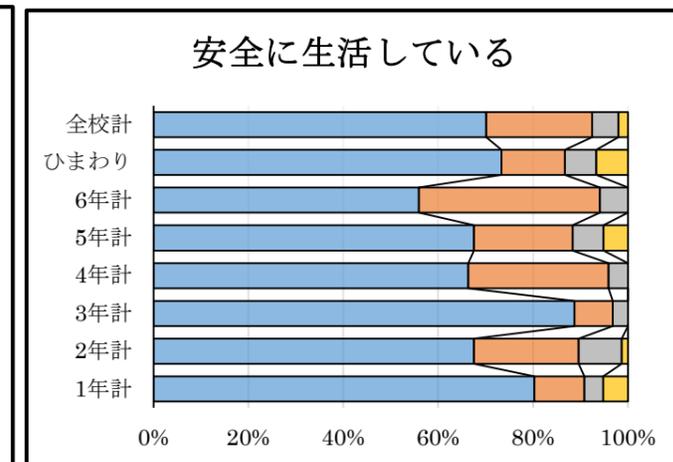
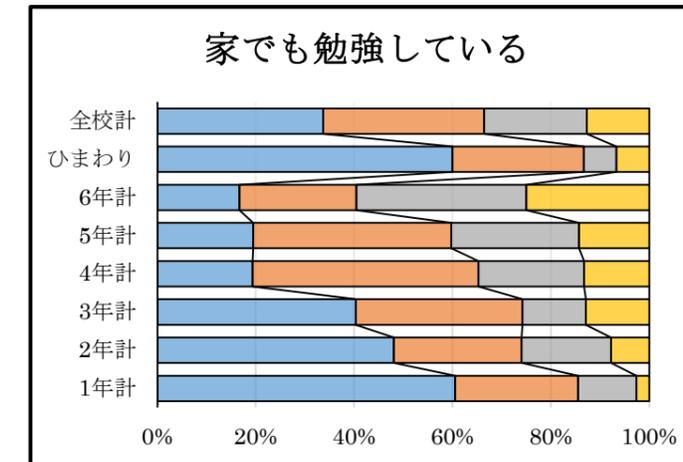
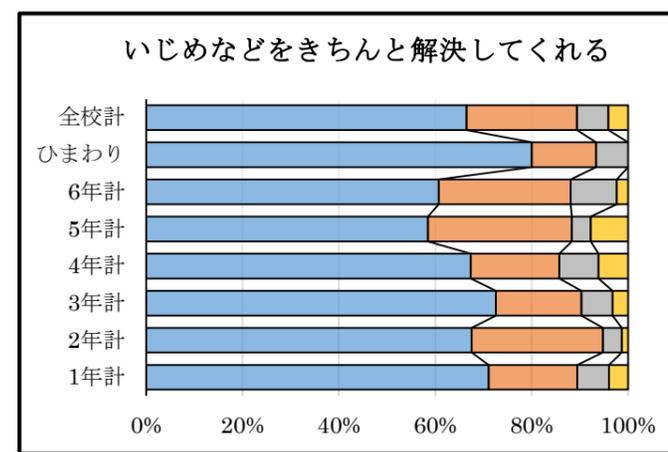
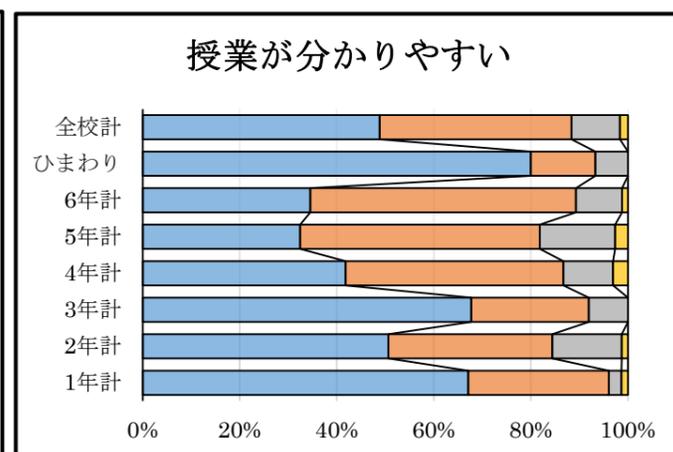
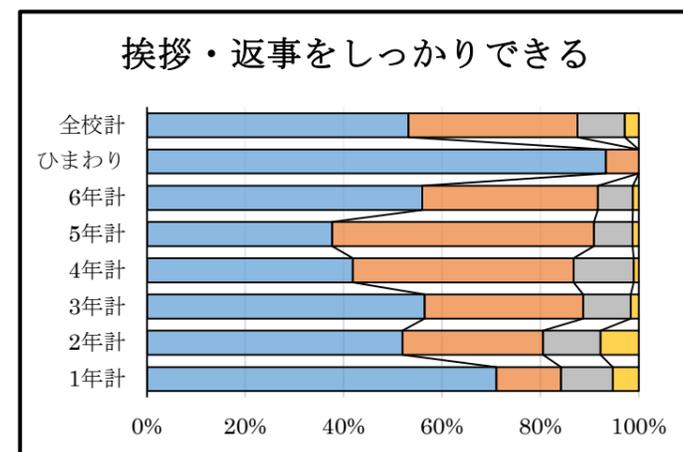
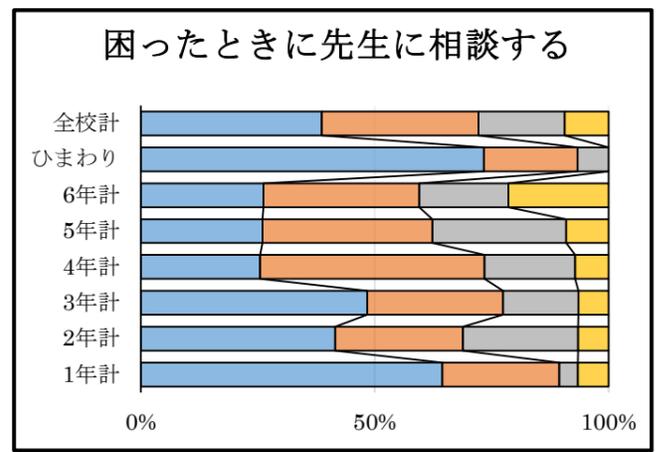
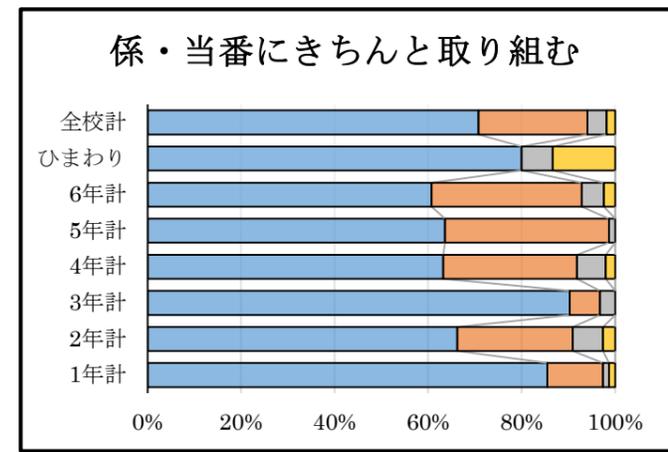
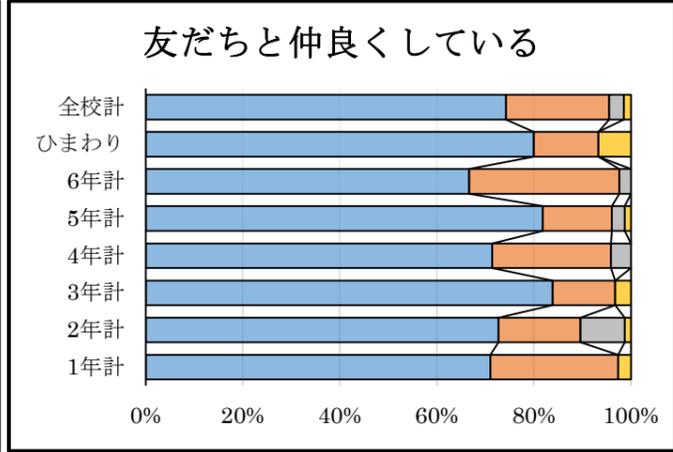
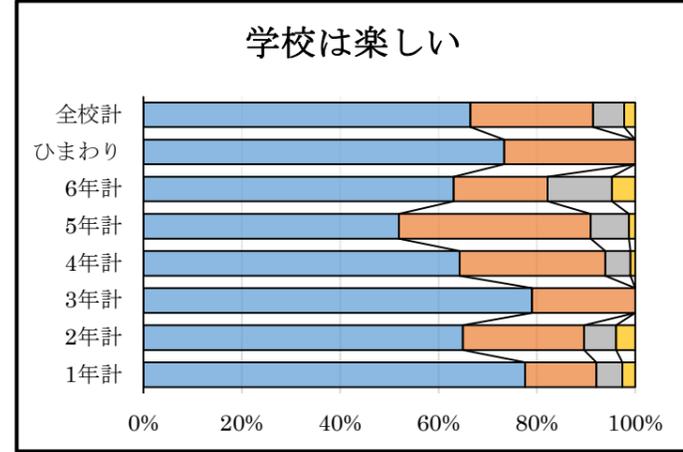


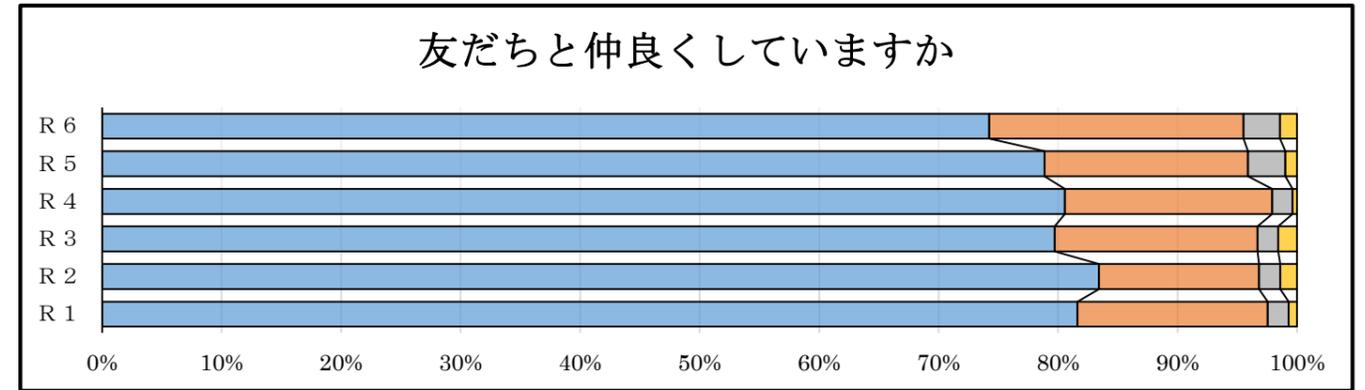
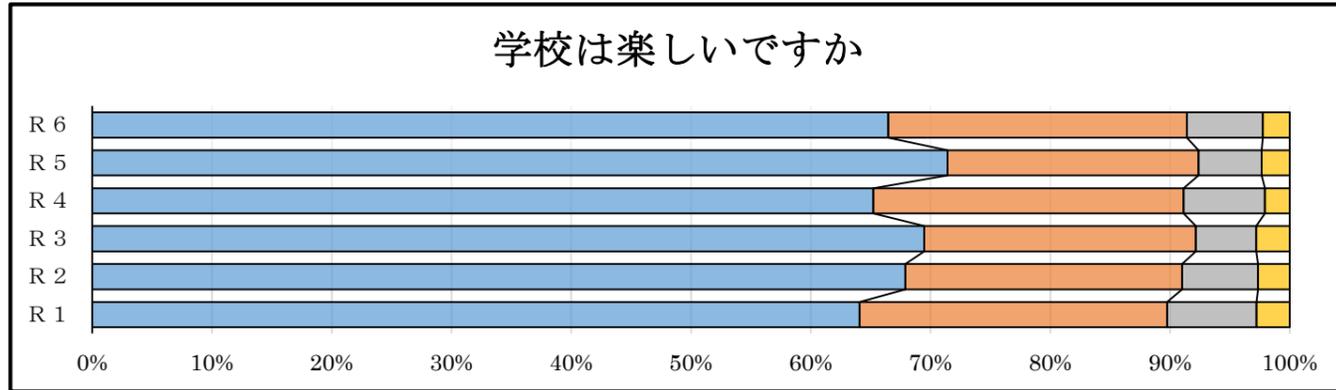
# 令和6年度学校評価アンケート 集計結果

■ そう思う ■ やや思う ■ あまり思わない ■ 思わない

## I 児童アンケート結果

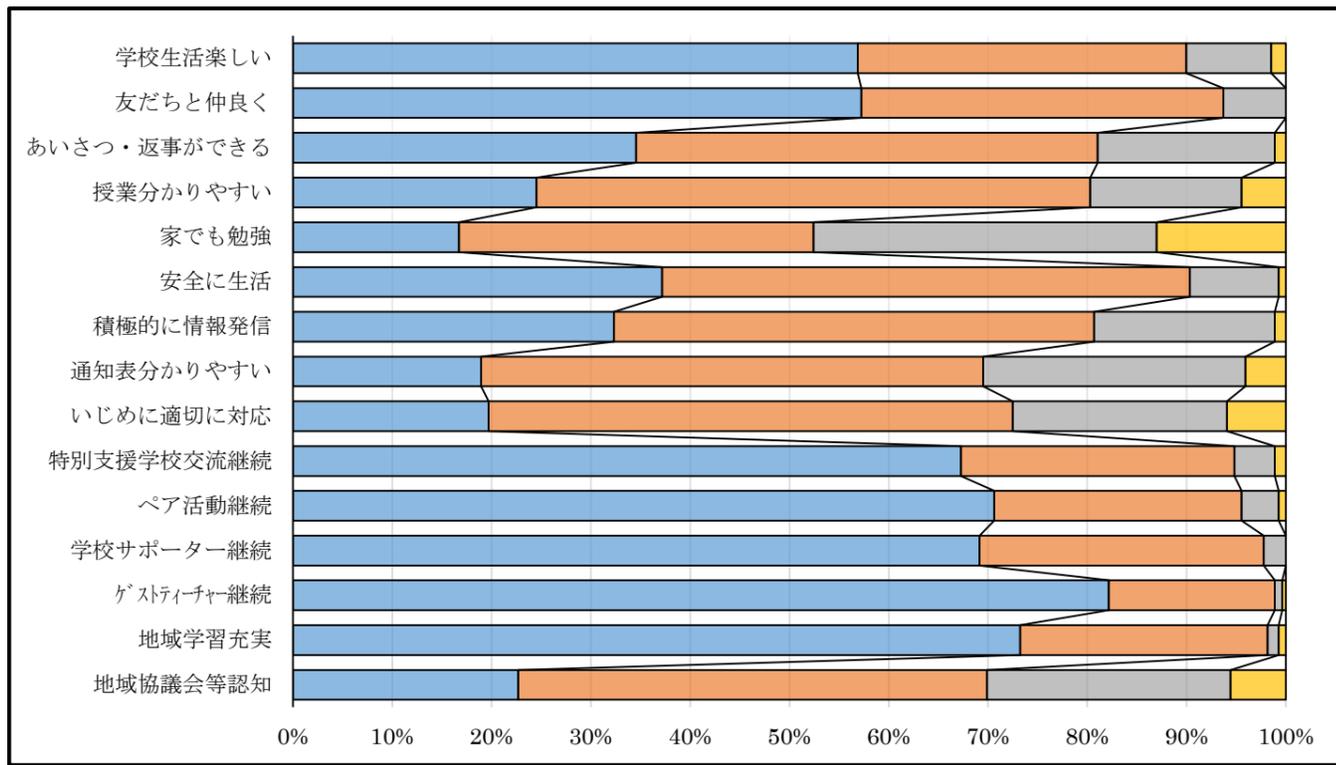


## II 経年変化（児童）

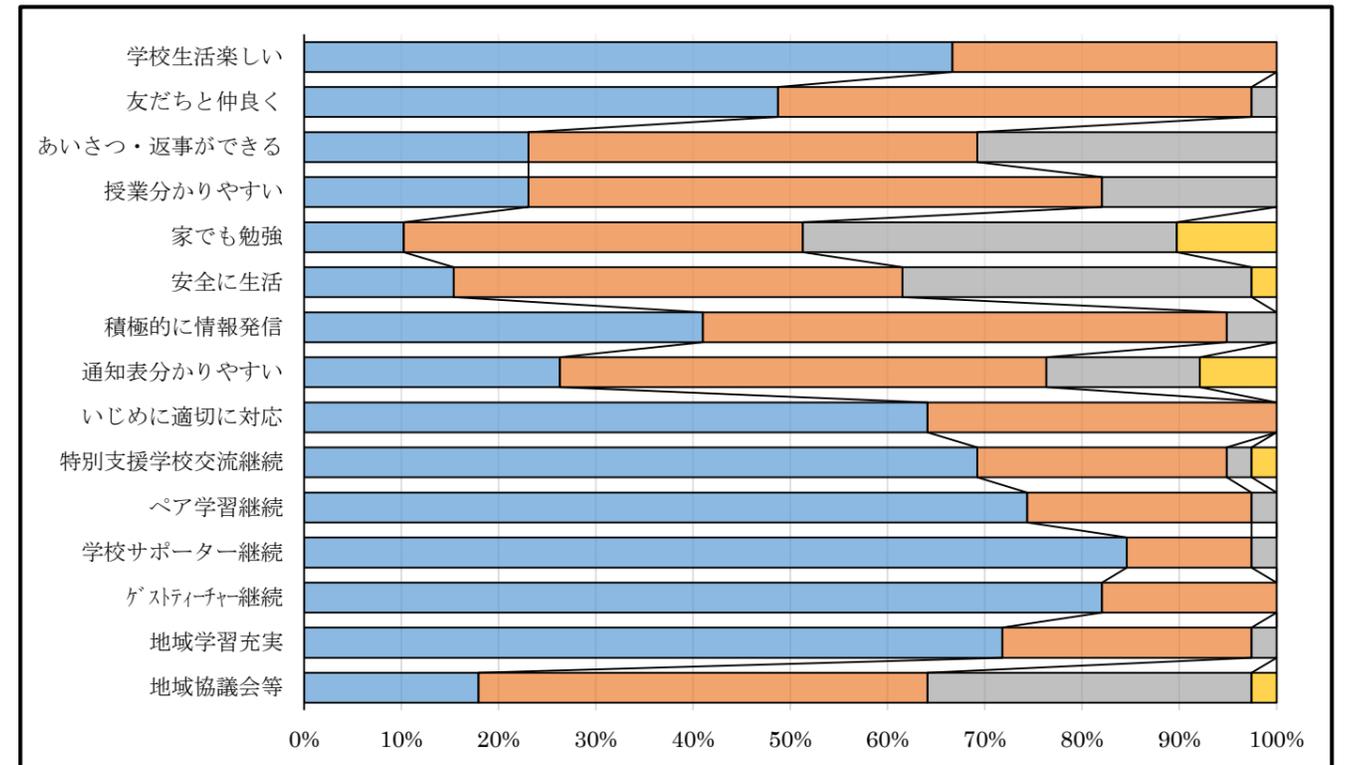


## III 保護者・教職員アンケート結果

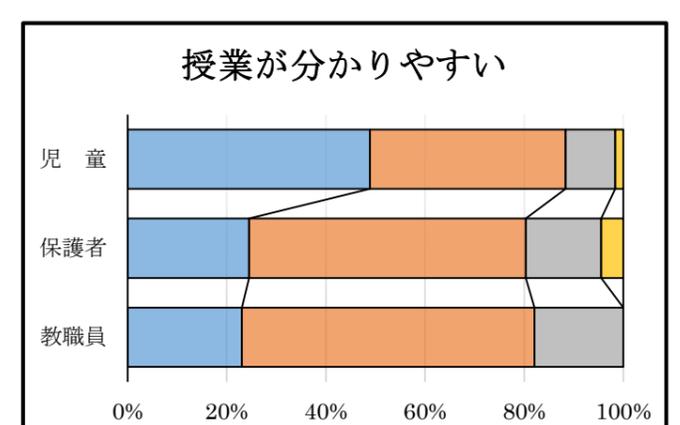
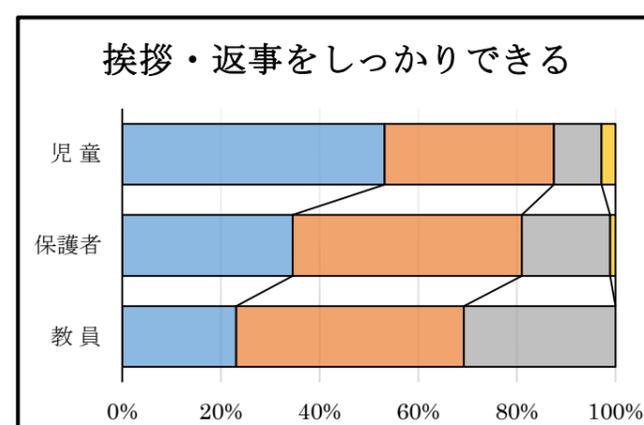
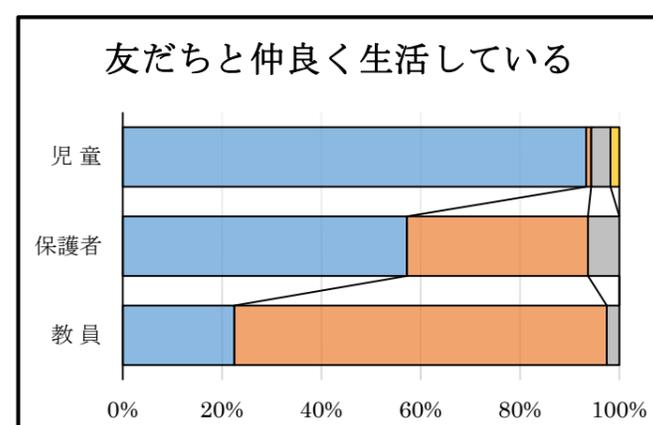
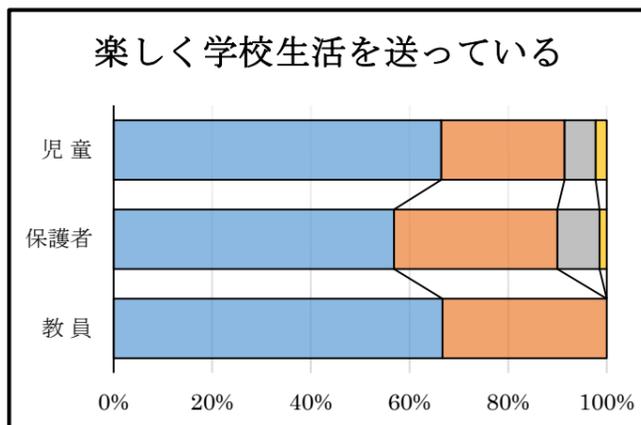
### <保護者アンケート結果>

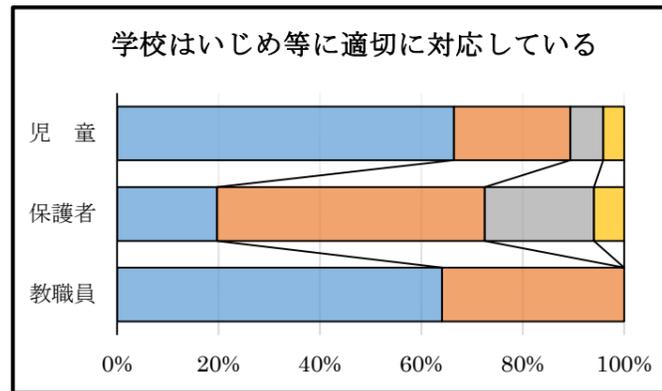
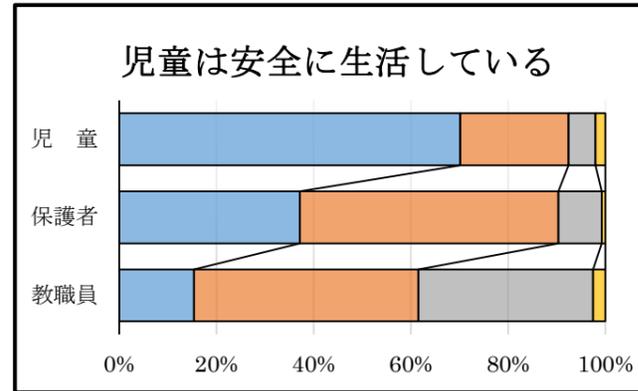
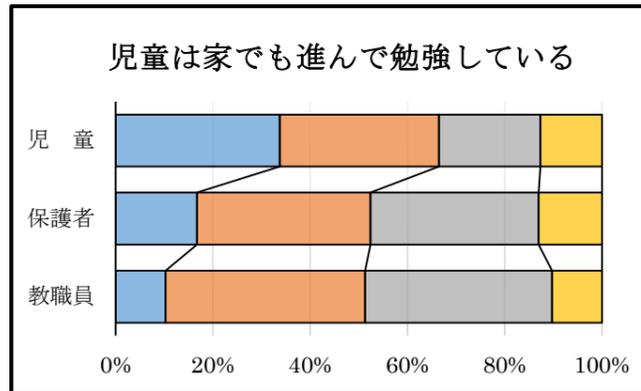


### <教職員アンケート結果>



## IV 児童・保護者・教職員アンケート結果三者比較





## 【学校評価アンケートの結果から】

### 1 児童アンケートの傾向

- 全体的に肯定的な回答が多い。ただし「学校は楽しくない」と感じている児童が42名、「友だちと仲よくできない」と感じている児童が22名いる。
- 「あいさつ・返事ができる」「授業が分かりやすい」「安全に生活している」「係・当番にきちんと取り組む」「先生はいじめなどをきちんと解決してくれる」という設問に対しては、肯定的な回答が90%前後である。ただし「いじめなどを解決してくれていない」と感じている児童が52名いる。
- 「家でも勉強している」「困ったときに先生に相談する」という設問内は否定的な回答が多い。とりわけ「困ったときに先生に相談しない」と回答している児童が136名(28%)いる。これらの児童には相談相手がいるのか、困ったときにどうしていくのか等、積極的に支援していく必要がある。
- 多くの児童は肯定的ではあるが、経年変化を見ると、「学校は楽しいですか」「友だちと仲よくしていますか」ともに否定的な回答が増加傾向にある。関わり合う対人関係に戻った中で、他者への想像力や理解が後回しになって起きるトラブルが、学年を問わず見られる。児童一人一人に寄り添うとともに、認め合い高め合う学級・学年づくり、ともに学びともに成長する学校づくりを、三位一体でめざしていきたい。

### 2 保護者アンケートの傾向

- 多くの保護者が、児童は楽しく学校生活を送り、友だちと仲よくできていると感じている。
- 「家でも勉強している」「通知表が分かりやすい」「いじめ等へ適切に対応している」については、他の設問に比べて否定的な回答が多い。
- 地域協議会について「よく知っている」「知っている」との回答が年々増加している。

### 3 教職員アンケートの傾向

- 多くの教職員が、児童は楽しく学校生活を送り、友だちと仲よくできていると、昨年度より感じている。
- 全体に見る目が厳しく、自他の評価とも「そう思う」の割合が低い。
- 「家でも勉強している」「安全に生活している」「通知表が分かりやすい」については、他の設問に比べて否定的な回答が多い。

## V 保護者・教職員アンケート結果二者比較

